

# お薬手帳

医療連携コメントとして、担当医、看護師、薬剤師が書き込む欄もある。上手に活用すれば、

自然と患者との対話が增え、多職種連携も進む工夫がされている。

まず、21の医療機関と、医療関連企業が手帳を導入。44症例(受診記録総数118回)のデータを分析した結果、6割以上で目標達成段階の向上がみられ、「治療目標の

理解」「患者と医療者のコミュニケーション」に役立ったと9割以上が回答。「薬剤治療の向上に役立った」も8割を超えており、好評だ。

一部の薬局チェーンで導入されたが、当初は道内198医療機関等に同手帳の案内を送ったものの、参加は21施設にとどまった点を課題に挙げ

「動脈硬化危険因子の管理目標達成率の向上には患者と医師、薬剤師、看護師の対話は重要で、そのツールとして今回作成した手帳を有効活用して欲しい」と三浦副理事長は期待。医療機関や薬局・薬局企業に向けた働きかけを継続していく考えだ。



日本関節病学会評議員としていち早くクーリーフに注目した鈴木副理事長



形念 北海道 整形 外科 北外

## 変形性膝関節症にクーリーフ導入

### 術後「痛みが半減」7割

豊平区の北海道整形外科記念病院(加藤貞利理事長、近藤真院長・199床)は、変形性膝関節症にCoolief

(クーリーフ)疼痛管理用高周波システム(ラジオ波治療)を導入した。

人工関節再置換術など膝治療に高い実績を持つ専

門医による低侵襲な治療法で差別化を図る。手術

クーリーフは、変形性膝関節症による痛みを抑える治療法。具体的にはエコーで観察しながら、

電極針を膝の2、3カ所に刺入。脳に痛みを伝える末梢神経にラジオ波を発生させて神経を遮断する。

同病院では外来時に膝関節の知覚神経をブロックするテストを行い、同治療法が適応するかを見極める。痛みが改善が見込まれる場合、手術を提案。神経にラジオ波が当たると痛みが生じるため、静脈麻酔と局所麻酔を併用しており、1〜2泊の入院が必要となる。

両膝を同時に施術でき、手術時間は約1時間。これまで実施した4例いずれも痛みが改善された」と、治療を担当する鈴木孝治副理事長。

臨床報告では、施術後に痛みの程度が半分になった割合は7割を超え、痛みの度合いは10段階のうち3程度まで軽減されるという。2年間以上効果が続き、痛みがゼロにならないとしても、

通院の頻度、痛み止めの注射や薬剤が減るなど患者にとってのメリットは大きい。変形性膝関節症の治療法は、これまでは消炎鎮痛剤、ヒアルロン酸注射等保存療法と人工関節全

置換術等手術療法だった。クーリーフはその中間に位置付けられる。93歳の患者は、保存療法では改善が見られず、手術療法ではリスクが高いと判断。クーリーフで治療したところ痛みが改善され、満足度も高かったという。

同病院は変形性を含む膝関節症への人工関節置換術患者数は152例、全人工関節置換術は年間288例の実績を持つ。ラジオ波治療で効果を見込めない場合は、手術療法を選択できるのも強みとなる。

施術要件として▼日本関節病学会会員で認定医のいる施設▼適切なフォローアップ体制を有する▼局所麻酔薬中毒などの緊急時に対応できる▼整形外科的手術が実施可能な医療機関などがあ

る。釧路三慈会病院が先駆けて導入しているものの、道内での導入施設は数少ない。人工関節手術の評価が高い同病院で、さらに低侵襲の治療を提供できるのは、大きな差別化にもつながる。

今後は周知を強化し、症例数を増やしていく。